

<b>P T A 活動紹介</b>		<b>高P連受付番号</b>	4
<b>P T A (学校) 名</b>	愛知県立一宮北高等学校	<b>部門</b>	ノンジャンル
<b>活動テーマ</b>	地域交流「北斗スポーツ・カルチャーフェスティバル」を支える		
<b>キーワード</b>	地域交流	将来につながる出会い	子ども達を支える
<b>開催日</b>	平成29年11月5日(日)		
<b>場 所</b>	愛知県立一宮北高等学校		
<b>時 間</b>	午後0時30分から午後3時30分		
<b>参加者</b>	地域小学生5年生6年生、その兄弟姉妹と保護者 一宮北高校生徒会執行部と運動部、文化部の15部活動の部員 一宮北高校P T A		
<b>趣 旨</b>	地域交流活動の一環として、地域住民(主に小学校5・6年生とその保護者)と高校生が、スポーツ・文化活動を通して交流する。生徒が小学生と一緒に笑顔で活動し、楽しさ・うれしさ・おもしろさを体験する。日常の活動では学ぶことのできないことを得る。このフェスティバルが小学生との将来につながるはじめての出会いである。小学生が一番はじめて感じる一宮北高校の印象を大切なものとする。		
<b>活動ポイント</b>	地域の小学生の活動を支え見守る生徒の保護者として、この機会がすこしでも将来につながるよき出会いになるようもてなし(炊き出し)で支える。		
<b>主体委員会名・講師名等</b>	愛知県立一宮北高等学校P T A 生徒会 (一宮市教育委員会 後援)		

**【北斗スポーツ・カルチャーフェスティバルについて】**

本行事は、平成21年度サッカー部が地域交流イベントとして、スポーツ少年団・クラブチームを対象にサッカーフェスティバルを開催したことに始まる。平成26年度に開校40周年記念事業のひとつとして、生徒会が全部活動に協力要請をしてスポーツカルチャーバイキングとなり、生徒の人的形成を期待する学校行事の取組となった。平成28年度からは一宮市教育委員会より後援名義をいただき、日程等では小学校や地域との調整をすすめたうえ、周辺小学校で案内・申込書を配付、Web ページに掲載し開催となった。

**【本年度の活動内容】**

本年度参加した小学生は、一宮市・江南市の5年生6年生100名であったが、兄弟姉妹と保護者あわせて合計200名程度の来訪者があった。本校の部活動生徒と生徒会が来訪者のお世話をし、PTAはその活動を支えるため活動後に豚汁・白玉入りしるこ・果肉デザートを作る舞った。

- 9月の臨時役員会で、生徒会よりフェスティバルの主旨説明とサポート要請を受ける
- 10月の第3回理事会にて、主旨を理解し小学生と生徒の活動を炊き出しでサポートすることとする
- 前日までに、プロジェクトチームで数度の打合せ、調理室使用にあたり家庭科教諭との打合せをする
- 当日 午前11時30分 食材搬入
- 午後0時30分 プロジェクトチーム集合、炊き出し仕込み開始(フェスティバル開会式)
- 午後15時00分 役割担当生徒と配膳準備(フェスティバル閉会式)
- 午後15時20分 小学生、付添い保護者、生徒、職員の順に役割生徒と振る舞い
- 午後16時00分 三品とも完食、後片付け
- 午後17時00分 プロジェクトチーム解散

○活動の様子



開会式 校長の歓迎あいさつ



部員の小学生誘導案内



PTAによる振る舞い準備と豚汁



フルーツと一緒に吹く

お手前拝見

スマッシュ

エイ ドンドン

できあがり

おいしそう

焼けてる?

ナイス  
スパイク!

テニス

ナイス  
シュート!

サッカー

陸上

豚汁をよそう PTA

振る舞う生徒

おいしい!!

また 遊ぼうね!きょうなら

**【今後に向けて】**

北斗スポーツ・カルチャーフェスティバルは、地域の子供達が本校の生徒と接することで、スポーツと文化の素晴らしさを知り、また本校の生徒、本校そのものに好印象を持ってもらうようにするものである。見方を変えれば、生徒が小学生をリスペクトし、丁寧に指導することによりコミュニケーションの大切さを知り、また、普段の学習活動とは逆の導く側の苦勞を知り、親や指導者へ感謝と謙虚さを学ぶ貴重な機会となっている。また、保護者は些細な支えであるが、同じフィールドで活動することで普段見られない子どもの一面を発見し、親子の絆を強める機会となった。

今後P T A活動として、今回の反省をもとに過剰な負担にならず、生徒が人として成長をするよう見守れる機会になるよう準備をしていきたい。

最後に、生徒のリーダー講習会の資料にあった言葉をあげ、P T A活動をより一層学びの場として広めていく参考としたい。「小学生と一緒に動き、楽しむ」「具体的に何をやるの」「楽しい、またやってみたくて言ってもらえる」「支えるところの作り出すメニュー」「小学生の後ろで親が見守っている」「大人に頼まれたからしょうがなくやるのか」「子ども達を笑顔にできるか」「小学生から何を学べるだろうか」「この機会をチャンスにするのもあなた次第」……

メール送信先

info@aichikoupren.org